

# 2024年度（第33期） 事業計画

自 2024年（令和6年）4月1日  
至 2025年（令和7年）3月31日

公益財団法人 北海道新聞野生生物基金

## <2024 年度予算>

■事業活動支出総額	24,826,250円
(前年度予算)	24,614,250円)
◇一般会計	16,904,900円
(前年度予算)	16,690,900円)
事業費	15,417,900円
(前年度予算)	15,202,900円)
管理費	1,487,000円
(前年度予算)	1,488,000円)
◇特別会計	7,921,350円
(前年度予算)	7,923,350円)

### はじめに

1992年の設立から32周年を迎える公益財団法人北海道新聞野生生物基金は、長引く景気の低迷による一般からの寄付金低迷と低金利による財産運用益の低迷で厳しい財政状況は続いており、これにロシアの侵攻開始から2年を超えたウクライナ危機と、昨年10月から続く中東情勢不安による諸物価の高騰が拍車をかけている。

収益事業のカレンダー事業は、一般企業によるカレンダー配布が減ってきている状況もあって底堅い需要があるので、引き続き収入源の柱としていく。

公益目的事業では、「モーリー通信」の国内の博物館や図書館をはじめ公的施設への配布とあわせてHPでの公開も行い、広く寄付金増を目指していく。

寄付金については、これまでと同様に一般向けのほか、北海道新聞社の社員・OB、販売所などへ引き続き支援を呼びかけていくのに併せ、Web上で寄付できる仕組みを新たに導入して収入増を目指していく。

### ◇収益事業（特別会計）

\*一般販売用カレンダー事業 440万円

「北海道野生生物写真コンテスト」の応募作品の中から秀作を選び、動物部門の大判吊り下げ型カレンダー、中判の中吊りカレンダーおよび植物部門の卓上型カレンダーを制作し、当基金や書店などを通じて北海道の野生生物を守る目的と願いを込め販売している。道内外で根強い人気があり、2024年版カレンダーも引き続き収入の柱とする。販売価格はいずれも税込みで、吊り下げタイプ1500円、中綴じタイプ1200円、卓上タイプ1000円として、販売数の増加を目指す。

## ◇公益目的事業（一般会計）

### 【普及啓蒙事業】

\*シンポジウム・フォーラム

20万円

2023年は新型コロナが5類へと移行したこともあって、9月に植物写真家の梅沢俊さんのネイチャーフォーラム、8月には基金設立30周年記念事業として過去の写真コンテスト入賞作品を使用した基金オリジナルカレンダーの展示とあわせた講演会を開催した。本年度も7月～8月、道内に生息する希少生物の保護や飼育に取り組む動物園の取り組みをテーマにしたネイチャーミニフォーラムの開催を企画している。このほか、野生生物保護、生態系保全などがテーマのイベントの開催を随時支援していく。

### 【自然体験活動事業】

(1) 環境出前講座

20万円

基金の評議員ら自然や環境問題の専門家が学校や地域講座などに出向き、得意分野のテーマで講演している。2023年度は富良野市の小学校や羅臼高校、知床のホテルで実施した2024年度も2～3回の開催を目指す。

(2) 環境エクスカージョン

10万円

2023年度は道新観光と組み自然散策と写真撮影を楽しむ知床探訪ツアーを7月に計画したが、クマの出没が相次いだ時期であったため参加者が集まらず中止した。2024年度は再度、同ツアーや、要請があれば自然体験型の事業に対応していく。

(3) モーリーの森づくり

15万円(+15万円)

2006年度から当別町の「道民の森」で植樹を行い、2012年度からは栗山町から用地を借用し植樹する協定を結び、植樹や種の採取・苗づくりなどを夏に実施してきた。道新こども新聞「まなぶん」の子ども記者らから参加者を募った栗山町での植樹は、コロナ禍のため2019年度の開催が最後で、以降は2022年度まで保育管理のみ行ってきた。2023年3月末で借用期限を迎えたため、適当な候補地が見つかるまで本事業の中断が余儀なくなったため、保育管理も止める予定であったが、最後の植樹地中心に保育管理を継続する。

### 【コンテスト事業】

(1) 写真コンテストと写真展

100万円

2023年度は、コロナ禍や応募者の高齢化などが進んだ影響か、応募者が△33人の185人となったため、応募作品数も△17%の485点(△99)となったが、作品の質自体は遜色ないものであった。貴重な収入源であるカレンダー事業につながるため、2024年度も夏に北海道の野生生物を対象とした写真作品を広く募集するコンテストを実施する。撮影マナー

の向上を呼び掛けつつ、北海道の大自然の息吹が伝わる写真を審査委員会で選考する。入賞・入選作は北海道新聞紙上やモーリー通信で紹介する。また、写真展は例年通り11月に富士フィルムフォトサロン札幌で開催する。

(2) 夏休み自然観察記録コンクール 20万円

北海道自然保護協会との共催。夏休み前に募集の案内を道内小学校に発送し、9月中旬締め切りで作品を募集する。入賞・佳作を北海道新聞紙上で発表し、優秀作品は道新こども新聞「まなぶん」やモーリー通信、ホームページで紹介する。好評の入賞作品展も引き続き開催する。

### 【出版事業】

\* 自然情報誌「モーリー通信」の発行 150万円

モーリー通信3号を発行する。野生生物保護の啓蒙に役立つモーリー刊行時の精神を踏襲しつつ、基金の事業や助成事業を詳報し、全国の博物館や図書館などに広く配置することで寄付者増を図る。また、同通信2号には初めてサポート企業などから広告掲載があったので、この拡大を目指す。

### 【助成事業】

\* 助成事業 320万円

野生生物基金の助成については、北海道内で認知度が高く、自然保護、野生生物保全に頑張っている団体・個人の活動を広く応援している。2024年度も前年度と同じく一般200万円、別枠の「杉本とき鳥類保護助成基金」100万円を助成する。4月中旬の審査会で助成対象を決定する。対象事業の実施期間は原則1年間で、計画実施後に報告書の提出を求め、内容はモーリー通信に掲載する。

### ◇その他の事業（一般会計）

(1) パンフレットなどの作成 10万円

リーフレットなど、新たな配布用として追加印刷をする。

(2) ホームページの維持・更新 10万円

基金の活動を広く宣伝・紹介するほか、助成事業や写真コンテストの応募用紙のダウンロードなど、事業の推進にも役立つ。

(3) Web 寄付決済手数料 8万円(+8万円)

Web上での寄付は、寄付金クラウドサービス「Syncable（シンカブル）」を導入する。このサービス利用料は1回の決済で5%（税別）。@5,000円×30件程度寄付を想定した。